

(様式2)

校種	○小・中 どちらかに○	学校番号	60	学校名	宇都宮市立上河内東小学校
----	----------------	------	----	-----	--------------

令和8年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・学年ごとの学力定着度のバラつきが課題となっている。今後は、基礎知識の確実な習得を土台としつつ、習得した知識を応用して思考する力や、自分の考えを筋道立てて記述・説明する力の育成に重点を置く必要がある。
- ・国語は、知識・技能、思考・判断・表現ともに、市の平均をやや上回っている。漢字の読み書き、敬語等、言葉に関する基礎的な知識はおおむね身に付いている。一方、目的や意図に応じて内容を考えることや、根拠を基に自分の考えを記述することには課題が見られる。
- ・算数は、知識・技能、思考・判断・表現ともに、市の平均を上回っている。数量や図形、資料に関する基礎的な知識はあるが、式や言葉で説明すること、考えを記述して表現することには課題が見られる。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・学習への取り組みについては、どの学年も平均を上回る肯定的回答が多い。自分自身に関する質問への肯定割合が高く、自己肯定感の高い児童が多い。
- ・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の設問においては、肯定的回答の割合は学年間でばらつきが見られる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・表現活動への意欲は高まってきているが、理由や具体例を挙げて筋道立てて話したり書いたりする力に課題がある。
- ・学力差により、自分の考えをもつことが難しい児童や、書くことに抵抗感をもっている児童が見られる。

2 今年度の重点目標

- ・自分の考えをもち、筋道を立てて表現できる児童の育成
～基礎的・基本的な知識・技能の定着を基盤として～
- ・学びに向かう児童集団の育成（上河内地域学校園「学力向上アクション6プラン」の推進）

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和8年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重

点は文頭に○)

(1) 基礎・基本の確実な定着

★□・主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の展開

宇都宮モデル（はっきり じっくり すっきり）の徹底

★・家庭学習の習慣化（低・中・高学年に応じた家庭学習）（通年）

★・朝の学習での反復練習（国語・算数），A I ドリルの活用（通年）

・習熟度別学習 かがやきルームの活用（通年）

・音読活動の推進

・教科担任制の推進

・個に応じた習熟プリント（通年）

(2) 学習指導の工夫・改善

□○・言語活動の充実を図り、「書くこと」を意図的に取り入れた共通実践（通年）

★・各種学力調査，質問紙調査の結果を生かした指導の共通理解と共通実践（通年）

★・生き生きと学び合い，協働的に課題解決をする学習活動の工夫（通年）

・一人一授業の実践と授業研究会の実施（通年）

(3) 読書活動の推進

・朝の活動を利用した15分間読書（水・金）や校内読書週間（11月）の実施

・図書ボランティアや教職員による読み聞かせの実施（通年）

(4) 家庭・地域との連携・協力

・「東っ子の学習」を活用した家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携（通年）

・「ゆずっ子5つの約束」による地域学校園で連携した取り組み（通年）

・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力（通年）

(5) 宮・未来キャリア教育の推進

・キャリアパスポートを活用し，年間指導計画の実践を通して，児童の勤労観・職業観の育成

(6) GIGA スクール構想

★□・「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的考えに立った，1人1台端末をはじめとした ICT 機器の積極的な活用。（通年）

(7) 宇都宮学

・社会科，総合的な学習の時間を中心に副読本や映像教材等を活用した郷土愛の醸成

・地域の伝統的な行事活動への参加，体験活動の充実（通年）

・食育との連携（通年）